

令和7年産 麦類技術情報 第4号

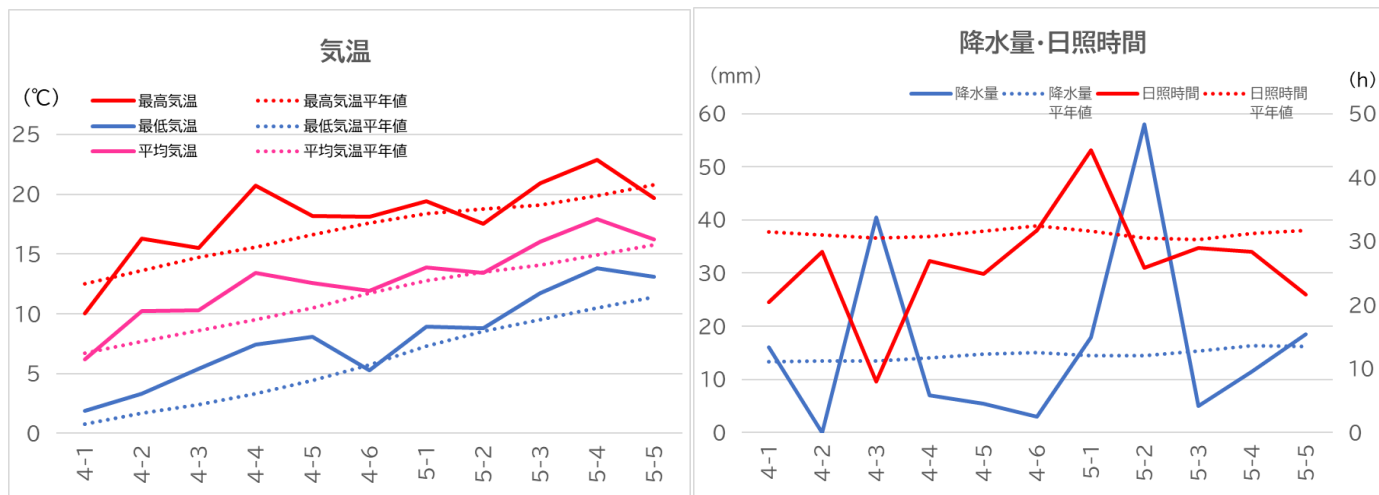
令和7年5月30日 宮城県美里農業改良普及センター

Tel 0229-32-3115 Fax 0229-32-2225

URL <https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



1 気象経過（4月第1半旬～ アメダス鹿島台、下図1）



4月以降は、一時的な低温はあるものの、期間全体としては平年より暖かく推移しています。
降水量は播種以降少なく推移していましたが、5月は降雨日が多く、月降雨量は平年を上回る見込みです。

2 生育調査ほ生育概況

表1 小麦生育調査ほの生育ステージ

品種	地区名	区分	播種日	幼穂形成始期	出穂期	(見込み)成熟期
シラネコムギ	大崎市鹿島台	本年値	11月30日	4月4日	5月10日	6月24日～29日
夏黄金	涌谷町	本年値	11月5日	3月27日	5月8日	6月22日～27日
		前年差/前年値	+13	+7	+10	+8～13
		平年差/平年値	+4	+2	+4	+3～8

※シラネコムギはほ場変更のため前年値、平年値なし。

※見込み成熟期は、出穂期と登熟日数の目安(45～50日)から算出。

調査ほでは平年よりやや遅い出穂となりました。

管内全体では大麦は平年よりやや早い4月25～26日頃が出穂ピークと見られ、6月5～10日頃には成熟期に達すると見られます。

小麦は平年並みからやや遅い5月8～10日頃が管内の出穂ピークと見られ、予測成熟期は6月22～29日頃となります。

昨年は生育が早く梅雨入り前の麦刈りでしたが、今年は梅雨時期と重なる可能性が高いです。晴れ間を縫っての作業が円滑に進むよう、準備を進めておきましょう。

3 今後の管理について

麦類は収穫適期が短く、収穫時期は品質に大きく影響します。栽培管理の最後の仕上げとして、適期収穫に努めましょう！！

◇穂水分測定による小麦の成熟期判定

小麦では、出穂後 25～30 日頃から1日あたり約 1.5%ずつ穂の水分が減少するため、穂の重さから成熟期(水分約 40%)までの日数を予想できることが報告されています。(長濱ら、2002)

晴天時に穂を採取し、乾燥前後の重さから水分を算出

$$(\text{測定水分}\% - 40\%) \div 1.5\% / \text{日} \\ = \text{成熟期までの日数}$$

◇成熟期と刈取適期について

早刈りでは選別不良や損傷粒が発生し、刈り遅れでは倒伏や穂切れによる収量損失、赤かび粒や穂発芽粒などにより品質が低下します。

また、収穫期は梅雨時期であるため、作業日数の確保自体が困難でもあります。このため、麦類の収穫では、成熟期の判定と余裕をもった作業計画が重要になります。

成熟期
水分 40%程度

約 3 日

機械収穫開始適期
水分 30%以下

4～5日

刈り遅れ！

- ・茎葉、穂首が黄化し、粒がロウくらいの硬さ
- ・小麦は出穂後 45～50 日、大麦は出穂後 40～45 日。

- ・粒が硬くなり、爪で傷つく。
- ・粒が小さくなる。

特に管内で多い「夏黄金」は品質低下が早く、遅くとも成熟期後 10 日以内に収穫する必要があります。

- ・穂がかたむく。
- ・粒は爪が立たない硬さ。

◇赤かび病について

赤かび病菌が産出するかび毒、デオキシニバレノール(DON)は人畜に中毒症状を引き起こすため、農産物検査規格での赤かび粒混入限度は「0.0%」と厳しく設定されています。

収穫前にほ場ごとの発生状況を確認し、発生が多いところでは刈り分けしましょう。また、「適期収穫」と「収穫後直ちに乾燥」することが収穫物への赤かび病の蔓延を防ぐため重要です！

右図：赤かび病の穂
(みやぎの大豆・麦類栽培技術
指導指針(宮城県)より)

